

移住就農し有機野菜を栽培

埼玉・ときがわ町 橋本拓さん

「環境に負荷かけず景観守りたい」



で販売している。

畑でヨガや古本市、収穫体験などのイベントも開いている。また、小豆の播種から収穫、さらに鮎への

加工までを体験する長期イベント「あんこクラブ」は実践的な農業も学べると好評だ。

橋本さんは「皆が畑に行きやすくなるよう、親しみやすい農園を作り、これからも地域で資源が循環する持続可能な農業を進めたい」と語る。

【埼玉】ときがわ町の橋本拓さん(47)＝写真＝は、有機野菜のおいしさに感動し、「自分もやりたい」と転職を決意。1年間の研修後、美観と有機農家が多い同町に2019年に移住し、新規就農した。現在、有機栽培でナスやニンジンなど約30品目を生産している。購入者からは「野菜の味が濃くておいしい。届くのが楽しみ」と好評だ。

橋本さんは、プラスチックを削減するため、マルチには稲わらを使い、包装は可能な限り新聞紙を使う。また、ライ麦の麦わらを加工した「畑のストロウ」を仲間らと商品化。妻の容子さんは、ニンジンなどでジャムを作り、地元のパン屋など